

# 人形劇の名舞台を振り返る

## Play Back the Stage



2016 特別展示「ひよっこりひょうたん島の世界」



2018 愛知人形劇センター30周年記念制作「犀」



2023 CHUNCHEON CITY PUPPET THEATER COMPANY「変身」  
撮影：igaki photo studio 画像提供：豊岡演劇祭実行委員会

私の人形劇の原風景といえば、NHKで放送されていた『ひよっこりひょうたん島』だ。ドン・ガバチョの「今日がだめなら明日にしましょ。どこまでいっても明日がある♪」という香気な歌に励まされたものだ。私が愛知人形劇センターに関わり始めた2016年にひよっこりひょうたん島の人形展示で実物を見ることができたのは感激ものだった。

ひまわりホールで子ども向けのいわゆる人形劇だけではなく、多様な人形表現に出会う機会を得ることができた。その中でも特筆したいのは、2018年、ウジェーヌ・イヨネスコ作の不条理演劇を人形劇化した『犀』だ。特徴的なのは、一幕二幕と物語が進むにつれ、20cmばかりの人形から等身大人形、そして生身の人間へとヒトの表現が変化していく点だ。そして自分以外の人々が徐々にサイになっていくという非現実的な様子は、段ボール箱や棒などのオブジェクトによる抽象表現で表されていく。自分以外がどんどんと抽象的で得体のしれないものになっていく中、人間は徐々に解像度が上がっていくような、人形を用いた舞台表現の可能性が拡張されるような舞台だった。

2023年豊岡演劇祭で上演されたCHUNCHEON CITY PUPPET THEATER COMPANY『変身』は、同じく不条理物語の代表作の人形劇だった。虫となったグレゴール・ザムザは面と針金のようなものでつくられた抽象的な造形物で表現された。抽象的とはいえ、巧みな操演で本当に気持ち悪い虫に見える。時にグレゴールの意識のように立ち上がる生身の操演者も印象的で、無彩色で無機質な人形の家族と対比すると、虫であるグレゴールの方が生々しく人間らしくも見える。

「人形」は人間より不自由なようでいて、時に人間以上に饒舌に自由になる。あえて「人形」や「モノ」を介して表現することで、レイヤーが重なり観る側にも豊かな想像力を与えてくれる。そんな舞台表現の可能性を拓ける豊かな人形劇作品に今後も巡り合いたい。

愛知人形劇センター理事 佐和ぐりこ



## Report

### 世界の人形劇を知る絶好の場に！ P新人賞NEXT2024特別講座レポート

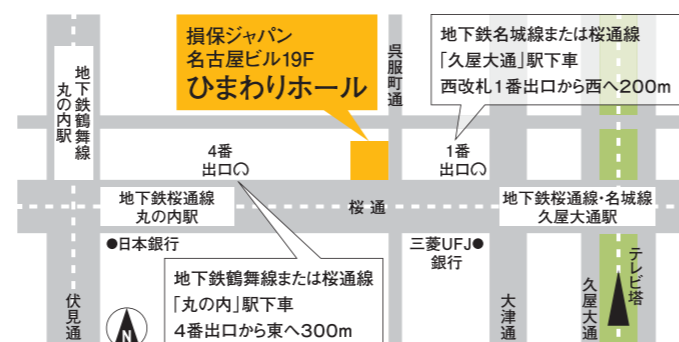
去る12月9日、損保ジャパン人形劇場ひまわりホールにおいて「ドイツ人形劇通に聞く！2024年の必見作品」と題し、P新人賞NEXT2024特別講座が開催されました。ひまわりホールを会場に、ドイツ・ミュンヘン市立博物館人形劇部門ディレクターのMascha Erbeling（マシャ・エルベルディング）氏とドレスデン国立美術館人形劇コレクション及びザクセン民俗文化博物館ディレクターのカテ・ロッホ Kathi Loch（ドイツ）氏のお二人をリモートでお招きし、すでにお馴

染みとなった日本学術振興会特別研究員（ドレスデン国立美術館）の山口遼子氏の通訳と進行でスタートしました。スクリーンを囲んだラウンドテーブルに会場参加者が集まり、スクリーンに次々と映し出されるヨーロッパの最新人形劇の紹介レクチャーを受けました。会場参加者からはパネリストの皆さんに多彩な質問が飛び、作品紹介だけでなくヨーロッパに点在する人形劇ミュージアムの話やドイツ人形劇事情まで幅広い意見交換ができました。当日紹介された

作品については、愛知人形劇センターWebサイトにリンクがありますので、興味のある方はぜひご覧ください。また、今回からオンラインでライブ配信を始めたことで、より多くの皆さんに参加いただくことができました。ヨーロッパの最新人形劇事情をキャッチできる貴重な企画。来年度以降も継続していきたいと考えています。ご期待ください。

愛知人形劇センター事務局長 中 康彦

作品紹介はこちら！  
[https://aichi-puppet.net/p-next\\_special\\_lecture\\_20241209/](https://aichi-puppet.net/p-next_special_lecture_20241209/)



特定非営利活動法人  
**愛知人形劇センター**  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21  
損保ジャパン名古屋ビル8F  
TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309  
<https://aichi-puppet.net/> MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター  
ひまわりホール情報誌  
**あぶ**  
愛知人形劇センター  
特定非営利活動法人 愛知人形劇センター  
発行人：高橋一  
編集人：中康彦  
デザイン：江利山浩二 (KINGS ROAD)  
編集：小島祐未子 (常磐の編集舎)

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。

2024 WINTER  
VOL.327  
<https://aichi-puppet.net/>

Aichi  
Puppetry  
Center  
**あぶ**  
ひまわりホールから  
発信する  
シアター情報誌

じゃじゃ丸も  
やってきて  
子どもたち大興奮！

ひまわりホール35周年 子どもアートフェスティバル2024より  
©スタジオジャジャぽ / NHKエンタープライズ